

## 2021年度（令和3年度）広島市立大学卒業式学長告辞

学部卒業生、大学院修了生、博士号取得の皆さん、本日はご卒業、ご修了、学位取得、まことにめでとうございます。これまで卒業生・修了生を支えてこられましたご家族の皆様にも大学を代表してお慶びを申し上げます。

本日の卒業式を迎え、皆さんの胸の内には、本学で過ごした年月の様々な思い出が走馬灯のように浮かんできているのではないのでしょうか。

社会では、皆さんが本学に入学してから、いろいろな出来事がありました。学部卒業生の多くが入学した2018年4月以降においても、2018年7月には西日本豪雨災害があり、広島市も大きな被害を受けました。2019年5月1日、元号が平成から令和に変わりました。そして、2019年の年末からは今も全世界で感染拡大が収まらない新型コロナウイルス感染症です。感染症の世界的パンデミックは100年前のスペイン風邪以来です。コロナ禍に伴い、東京オリンピック開催は2021年夏に延期開催となりました。さらに、先月末にはロシアによるウクライナ侵攻が発生し、第2次世界大戦後にかろうじて保たれてきた世界の平和が、今、危機的状況に瀕しています。

コロナ禍は、ビフォアコロナの世界では当たり前のように思われていた価値観や規範を根本から揺るがしました。例えば、効率を最大限に重視する経済や国境を越えたグローバル化の負の側面がコロナ禍により顕在化しました。また、国連常任理事国であるロシアが国連憲章と国際法を踏みにじて他国を侵略したことも大きな衝撃でした。新型コロナウイルス・パンデミックとロシアのウクライナ侵攻によって、この世界の基盤は人々がなんとなく思っていたよりもずっと脆弱であることが明白になりました。

このような状況において、本日、卒業式を迎えた皆さんは、未来に対する不安を抱いているかもしれません。確かに、新型コロナ禍、ロシアによるウクライ

十侵攻以外にも地球温暖化、少子高齢化、格差社会など、未来に対して不安を抱く要素は枚挙にいとまがありません。しかしながら、こういうときだからこそ私は人間の力を信じたいと思います。人間はこれまでも数えきれないほど多くの困難に出会ってきました。疫病の大流行で数千万人が死んだこともあれば、第2次世界大戦ではやはり数千万人の死者が出ました。有史以来、あらゆる困難が人間を襲いましたが、人間の勇気と叡智がかりうじて人類を滅亡から防いできました。未来の見えない状況だからこそ、私はその人間の力をもう一度、確認し、信じたいと思います。

皆さんは、ギリシャ神話の「パンドラの箱」という寓話をご存じでしょうか。太古の昔、神の一人であるプロメテウスによって火を使うことを教えられた人間は、火を使って争うようになりました。そこで、全能の神ゼウスは人間を罰するため、パンドラという女性に箱を持たせ、人間界に送り込みました。絶対に開けてはいけないと言われていたその箱を、パンドラは好奇心から開けてしまいます。すると、箱の中からあらゆる災いと不幸が飛び出して世界中に広まり、それ以降、人間は災いと不幸に苛まされるようになりました。慌てたパンドラは箱を閉めますが、箱の中には「希望」だけが残されていました。

この寓話はあらゆる災厄は人間自身に原因があるとも解釈できますが、どんな災いや不幸に襲われたとしても、最後に人間に残るものは「希望」であることも教えています。私はこの寓話を、どんな困難な状況に陥ろうとも、希望を失うことなく前向きに生きるのが人間の宿命であると解釈しています。卒業する皆さんには、是非、希望を持って未来を切り開く決意を新たにしたいと思います。

とはいえ、先の見えない世界に飛び出したとき、時には迷い、どう生きればいいのか、と思うこともあるかもしれません。そうしたときに思い出してもらいたい言葉をここで皆さんに贈ります。

「過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望を持つ。

大切なのは、疑問を持つことをやめないことだ。」

これは歴史上、ニュートンと並ぶ天才物理学者であるアルベルト・アインシュタインの言葉です。この言葉には混沌とした世界を生き抜くヒントがあると私は思います。未来への選択を誤らないためには、過去に学び、現在を誠実に生き、その上で未来に希望を託す。ここには、パンドラの箱の寓話に共通する考え方があります。そして、大切なことは、常に好奇心を持って考え続けることだと、アインシュタインは言います。これからの皆さんの人生において、常に好奇心と希望を持って、よりよい未来のために考え続け、そして誠実に生きて下さい。

最後になりますが、この2年間、皆さんの学生生活は新型コロナウイルスで大きな影響を受けたことと思います。卒業研究や卒業制作、あるいは修士論文研究等も例年とは大きく異なる環境での研究や制作となり、大変だったでしょう。コロナ禍の様々な困難があったにも関わらず、それに負けずに勉学と研究に励み、本日、卒業、修了を迎えられた皆さんに、最大限の敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症が収まらないため、一昨年、昨年につき、本年度も例年の形態では卒業式を実施できなくなったことはまことに残念です。しかしながら、卒業式の形態がどうであろうと、ご家族、皆さんの友人、そして大学教職員は皆さんの卒業・修了を祝い、新たな門出を心から祝福します。皆さんのこれからの健康と幸運、ご活躍を心より祈ります。

本日は、ご卒業、ご修了、学位取得、まことにめでとうございます。

2022年（令和4年）3月23日

公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 若林 真一